

福音メッセージ 人の営みと神の時

伝道者の書 3章

- 1 すべてのことには定まった時期があり、天の下のすべての営みに時がある。
- 2 生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。植えるのに時があり、植えた物を抜くのに時がある。
- 3 殺すのに時があり、癒やすのに時がある。崩すのに時があり、建てるのに時がある。
- 4 泣くのに時があり、笑うのに時がある。嘆くのに時があり、踊るのに時がある。
- 5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集めるのに時がある。
抱擁するのに時があり、抱擁をやめるのに時がある。
- 6 求めるのに時があり、あきらめるのに時がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに時がある。
- 7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある。
- 8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。戦いの時があり、平和の時がある。
- 9 働く者は労苦して何の益を得るだろうか。
- 10 私は、神が人の子らに従事するようにと与えられた仕事を見た。
- 11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。
しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。
- 12 私は知った。人は生きている間に喜び楽しむほか、何も良いことがないのを。
- 13 また、人がみな食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸せを見出すことも、
神の賜物であることを。
- 14 私は、神がなさることはすべて、永遠に変わらないことを知った。
それに何かをつけ加えることも、それから何かを取り去ることもできない。
人が神の御前で恐れるようになるため、神はそのようにされたのだ。
- 15 今あることは、すでにあつたこと。これからあることも、すでにあつたこと。
追い求められてきたことを神はなおも求められる。
- 16 私はさらに日の下で、さばきの場に不正があり、正義の場に不正があるのを見た。
- 17 私は心の中で言った。「神は正しい人も悪しき者もさばく。
そこでは、すべての営みとすべてのわざに、時があるからだ。」
- 18 私は心の中で人の子らについて言った。
「神は彼らを試みて、自分たちが獣にすぎないことを、彼らが気づくようにされたのだ。」
- 19 なぜなら、人の子の結末と獣の結末は同じ結末だからだ。
これも死ねば、あれも死に、両方とも同じ息を持つ。
それでは、人は獣にまさっているのか。まさってはいない。すべては空しいからだ。
- 20 すべては同じ所に行く。すべてのものは土のちりから出て、すべてのものは土のちりに帰る。
- 21 だれが知っているだろうか。人の子らの霊は上に昇り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。
- 22 私は見た。人が自分のわざを楽しむことにまさる幸いはないことを。それが人の受ける分であるからだ。だれが、これから後に起こることを人に見せてくれるだろうか。

人の営みと神の時

伝道者の書3章

I. 人は時を支配できない

1. 古来、暦の作成は権力者の特権
2. 人は、時にあらがえない → 労苦してみたところで何になろう(9節。共同訳)
3. 希望の光 「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」(11節)

He has made everything beautiful in its time. (NKJ)

(神は、すべてを、その時がくれば美しくなるように造られた)

＝たとえ今はそうでないように見えても。

「人の心に永遠を与えられた」(11節) 「永遠を思う思いを」(旧訳)

II. 現実的な幸福論

1. 「食べたり飲んだりして、すべての労苦の中に幸せを見出すこと」(13節)
2. 「人は神が行うみわざの初めから終わりまでを見極めることができない」(11節)
＝たとえ今はすべてがわからなくても (人生をあきらめてはいけない)

III. 神こそが主権者

1. 「神がなさることはすべて永遠に変わらない」(14節)
＝神がなさることは完全なので、改善、改良の余地はない。
2. 「追い求められてきたことを神はなおも求められる」(15節)
God requires an account of what is past. (KJV)
(神は過ぎ去ったことへの説明を求められる)
→ 「神は正しい人も悪しき者もさばく」(17節)
←「さばきの場に不正があり、正義の場に不正がある」(16節)
3. しかし、弱肉強食という点で、人間も動物(獣)も同じではないのか(19節)
「人間の例は上に昇り、動物の霊は地の下に降ると誰が言えよう」(21節。共同訳)
「死後どうなるのかを、誰が見せてくれよう」(22節。共同訳)



「ふつうが一番」

- I. 過去も未来も、私たちは支配できない。しかし「今」なら支配できる。
神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。(Ⅱコリント6:2)
- II. 食べたり飲んだりすること自体が幸せではない。希望があつてこそ。
もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。(Ⅰコリント15:32)
- III. 「人の子」としてキリストはさばかれてくださった。
キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。(Ⅰペテロ3:18)